

## 昭和前半の消防施設

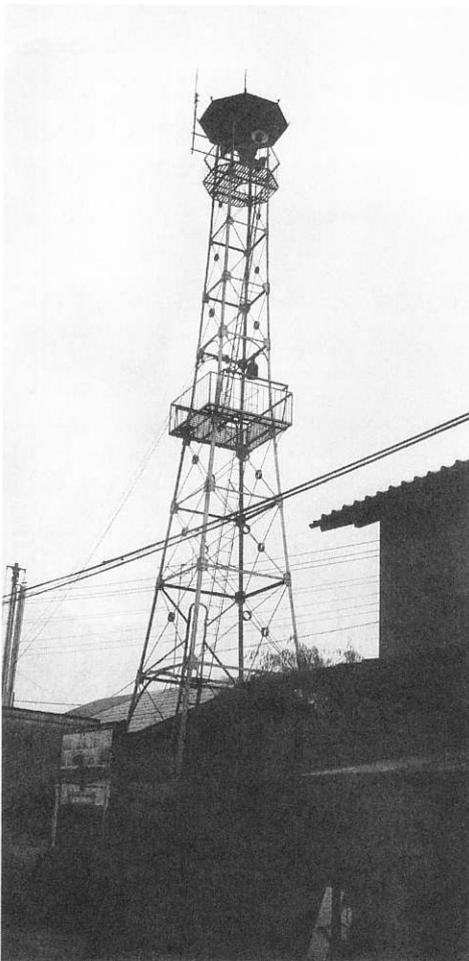


写真 1



写真 2

### — 解 説 —

写真 1 三ツ木・宿の火の見やぐら

昭和30年頃、世田谷方面から移設したもので、高さ約20メートル。平成8年に取り壊された。

写真 2 横田・東久保の防火用水堰

昭和20年代に防火用水を確保するために空堀川上流部に設けられた堰。

(榎本光好氏、田代悦康氏、本木義治氏、山崎栄作氏にお話をうかがいました。)

## 特別寄稿

このたび、前北多摩西部消防署長であった吉澤一彦氏（現足立区足立消防署長）から「指田日記に見る武蔵村山の火災」と題する原稿をお寄せいただきました。氏は北多摩西部消防署在任中に武

蔵村山市の文化財に指定されている「指田日記」を精読され、江戸時代末期から明治時代初期に至る武蔵村山の火災について調査されておりました。以下、次ページから氏の論稿を掲載いたします。

# 指田日記に見る武蔵村山の火災

前北多摩西部消防署長 吉澤 一彦

## 1 はじめに

武蔵村山市は江戸時代の中藤村、岸村、横田村、三ツ木村の四ヶ村が村山町を経て市となり現在に至っています。今から165年ほど昔、当時の中藤村の陰陽師指田撰正藤詮（さしだせつつのかみふじあきら）が書き残した指田日記（天保5年から明治3年の37年間）が当時の村人の生活や出来事を鮮やかに残してくれています。北多摩西部消防署にお世話になって私達が住む町でどんな社会生活が営まれていたのか、どんな出来事があったのかを知りたいと思いました。特に火災に関する事項を拾い読みすると、そこには江戸末期の村山の興味有る姿が見て取れます。ここでは武蔵村山の火災を資料、「指田日記」平成6年1月15日発行武蔵村山市文化財資料集11として編纂されたものの中から見ていくこととします。

## 2 火災の発生状況

火災は、地球上に人類が誕生する前からあったと言う説もありますが、火災が問題なのは人間の生活で実際の被害、損害が発生するからであります。すなわち、人が社会生活をする上で大きな損害を生じるからであります。特に社会の発展も十分でなかった時代にはいったん起きた火災はその消火も思うようにははかどらなかったことでしょう。

指田日記の記述にある火災は総数で198件、これは西暦1834年（天保5年）から西暦1870年（明治3年）の間であります。その内訳は、現武蔵村山市の四ヶ村で108件、現東大和市内の各村、現瑞穂町や所沢市など近隣の各村の分が90件であります。年間最多は、1870年の14件であり、1836年の11件、1858年、1862年及び1867年の10件と続きます。少ない年は1860年の1件であります。武蔵村山市の四ヶ村の月別の発生件数は表1のとおりで、冬期に多いことが伺えます。年の平均は5.35件これはいわゆる延焼火災であります。もちろん統計的な考えがあって正確に記録されたものではないので、その数の多少は不詳ですが日記の状況から、火災は生活する中で重大な関心事であったに違いないと思われれます。少なくとも指田日記を残した指田陰陽師は仕事の関わりからも深い関心を持っていたと思われれます。

村名	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
中藤村		7	8	8	13	4	0	3	3	1	3	13	15	78
横田村		3	5	0	2	0	0	1	0	0	1	1	1	14
三ツ木村		3	1	2	0	0	1	1	0	0	2	1	3	14
岸村		1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2
計		14	14	10	15	4	1	5	3	1	6	15	20	108

表1 村別火災発生件数(天保5年から明治3年)

昔も寒い季節に火災が多く、11月から4月の間に96件88.8パーセントとなっています。指田日記が中藤村を中心に書かれているので他の三ヶ村の火災が少ないとも思えますが、全体の火災の記述から見れば火災の発生は当時の一番人口が多い中藤村がやはり最も多かったと考えて良いと思います。

日記の書かれた天保5年から明治3年までの37年間の年別火災発生状況は表2のとおりであります。

年号	火災件数	中藤村	横田村	三ツ木村	岸村	近隣	参考事項	
天	5	8	0	0	1	0	7	0
	6	5	4	0	0	0	1	0
	7	11	3	1	1	0	6	1
	8	8	4	2	1	0	1	1
	9	6	1	0	0	0	5	0
	10	2	0	0	1	0	1	0
	11	4	2	0	1	0	1	0
保	12	2	0	0	0	1	1	0
	13	3	1	0	0	0	2	0
	14	3	1	0	0	0	2	0
	15	4	3	0	0	0	1	1
弘化	2	6	1	0	0	0	5	3
	3	3	1	0	0	0	2	0
	4	6	5	0	0	0	1	1
嘉永	元	2	2	0	0	0	0	1
	2	4	0	1	1	0	2	0
	3	9	2	0	0	0	7	0
永	4	2	1	0	0	0	1	0
	5	6	1	3	0	0	2	1

嘉永	6	2	1	1	0	0	0	0
	7	3	0	0	1	0	2	0
安政	2	3	1	0	1	0	1	0
	3	5	1	1	2	0	1	1
	4	2	0	0	0	0	2	0
政	5	10	5	0	0	0	5	4
	6	6	4	0	0	0	2	3
万延	元	1	1	0	0	0	0	0
	2	1	1	0	0	0	0	2
文久	元	6	3	1	0	0	2	1
	2	10	3	0	2	0	5	0
	3	8	2	0	0	1	5	1
元治	元	2	1	1	0	0	0	0
	2	1	0	0	0	0	1	0
慶応	元	6	2	1	1	0	2	0
	2	5	2	0	0	0	3	0
	3	10	5	0	0	0	5	0
	4	5	1	0	0	0	4	0
明治	元	1	1	0	0	0	0	0
	2	3	0	2	0	0	1	0
	3	14	11	1	1	0	1	1
計	198	78	14	14	2	90	23	

表2 村別火災等記述数

次に、昭和43年北多摩西部消防署が発足してからの30年間と比較して見ると、昭和43年から平成9年までの間に武蔵村山市1,178件、東大和市1,135件で当時の18倍の火災件数ですが、延焼火災を見ると173件で江戸時代と大差の無いことがわかります。家屋や人口、世帯数などは増加していますが、家屋が燃えにくい構造になり消防制度が整備されたことにより被害は最小で済んでいると言えます。

また、火災の発生時間帯を見ると108件のうち明確な刻、時（とき）が書かれているのは63件、時の無いのが45件、時間は夜のみが41件、昼のみが13件、明け方、夕方が9件です。江戸時代の時間のとり方は、いわゆる不定時法、太陰太陽暦、日の出から日没までを6等分、太陽の無い時間を6等分しているので、夏と冬では同じ時（とき）でも日の出の差は3時52分から6時52分でその差は2時間以上の開きがあります。日の出だけを見てもこのように違うのが江戸時代の生活であります。おのずと人々の生活は太陽の動き、月の動きと共にあったのでしょう。今に生きる我々の様に

決められた時間で暮らす者とは随分と生活リズムが違っていたのであろうと考えます。

時刻	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
無		4	4	3	4	1	0	1	1	0	0	7	5	30
朝・夕		0	2	2	0	1	0	0	0	0	1	0	0	6
昼		0	1	0	1	1	0	1	1	0	0	1	2	8
夜		3	1	3	8	1	0	1	1	1	2	5	8	34
計		7	8	8	13	4	0	3	3	1	3	13	15	78

表3 月別・火災発生時間帯調べ(中藤村)

時刻	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
無		1	3	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1	6
朝・夕		0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
昼		0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
夜		2	0	0	0	0	0	1	0	0	1	1	0	5
計		3	5	0	2	0	0	1	0	0	1	1	1	14

表4 月別・火災発生時間帯調べ(横田村)

時刻	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
無		1	1	2	0	0	0	1	0	0	0	1	2	8
朝・夕		1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
昼		1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	3
夜		0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2
計		3	1	2	0	0	1	1	0	0	2	1	3	14

表5 月別・火災発生時間帯調べ(三ツ木村)

時刻	月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	計
無		1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
朝・夕		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
昼		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
夜		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
計		1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2

表6 月別・火災発生時間帯調べ(岸村)

時の記述が無いものであっても、昼夜の数から推測すればやはり夜に多かったのではないかと思います。こうして見ると、火災の発生は現在も江戸の時代と共通しているようにみえます。

(次号へ続く)

寄 贈 資 料 (平成10年度)

区分 番号	寄 贈 者 (敬称略)	住 所	寄 贈 品 名	数 量
1	鈴木俊信	神明三丁目	鯉のぼり	4点
2	市管理課	本町一丁目	練炭コンロ・倉の鍵ほか	50点
3	佐々木理新	狭山市笹井	瓦	3点
4	渡辺武男	神明三丁目	警防団半纏・手斧ほか	5点
5	赤堀大正組	中央五丁目	銚子・鉄鍋・椀ほか	30点
6	榎本昭	立川市錦町	中藤村地籍図	1点
7	山田貞子	中藤一丁目	コテ	1点
8	内野裕旦	中藤四丁目	ひな人形・提灯ほか	10点
9	石川伊三郎	三ツ木一丁目	二重まわし	1点
10	村山美春	瑞穂町箱根ヶ崎	煉瓦 (旧野山焼場跡)	1点

資料館利用状況 (平成10年度)

区分 月	開館日数	総利用者数	市 内		市 外	
			人 数	割 合	人 数	割 合
4月	24日	1,271人	631人	49.6%	640人	50.4%
5月	24	1,108	536	48.6	572	51.6
6月	24	747	311	41.6	436	58.4
7月	25	965	486	50.4	479	49.6
8月	25	1,074	520	48.4	554	51.6
9月	21	996	570	57.2	426	42.8
10月	21	567	268	47.3	299	52.7
11月	23	785	322	41.0	463	59.0
12月	22	532	271	50.9	261	49.1
1月	22	911	352	38.6	559	61.4
2月	22	1,053	660	62.7	393	37.3
3月	24	940	547	58.2	393	41.8
合計	277	10,949	5,474	50.0	5,475	50.0